

## はじめに

医学の進歩により、今まで生きることが難しかった多くの病気でも、救命、そして長期の生存が可能となりました。今後もさらに増えると考えられますが、この「救われた命をいかに輝きのあるものにする」ということも同時に考えていかなければなりません。在宅医療はこのことに対する、一つの大切な方法ではありますが、小児においては始まったばかりで、解決すべき多くの問題があります。この問題解決のために、医師が果たすべき役割も大きなものがあります。

今回、「平成27年度在宅医療関連講師人材養成事業（厚生労働省）」の小児の部分である平成27年度小児等在宅医療に係る講師人材養成事業を、国立成育医療研究センターで受託することとなり、本事業の一環として「小児在宅医療地域コア人材養成講習会」を開催する運びとなりました。

本講習会では、全国都道府県から推薦された先生方が、今後、地域の地域において、小児在宅医療の基盤整備、推進活動においてアドバイザー役になるため基礎知識を得ていただくことを目的としています。今回の講習会での基礎知識とは、日々の患者さんたちを診察、治療するためのものではなく、急速に整備の進んでいる地域包括ケアシステムの対象を、高齢者だけでなく、さまざまな障害や、日々の生活を送るために、高度の医療的ケアが必要な児・者にまで広げるためには今後どのように活動すべきであるかを考えていただくものです。小児在宅医療への期待は高まりをみせていますが、地域や、都道府県により大きな差があることも事実です。在宅医療を必要としている子どもは、私が住んでいる地域にいないと認識されている方もいらっしゃるかも知れませんが、在宅医療を必要としている子どもは自宅から外に容易には出られず、地域に知られず生活されている可能性がある、ということも理解していただく必要があると思います。このため、小児在宅患者の現状を理解し、小児在宅医療という新しい医療の形態を社会に正しく認識させるための取り組みは、決して簡単なものではありません。

本講習会を受講することで、先生方が、小児在宅医療に関するさまざまな知識を深め、今後自らが地域の中で果たすべき役割を理解し、多業種との協働を通して、小児在宅医療の基盤整備、推進活動に関する意義と方向性を理解されることを希望いたします。研修会に際し、シラバスを編纂いたしましたので、研修修了者が持ち帰り、小児在宅医療関連事業に活用し、地域で貢献いただければと考えています。

最後に、本事業を行うにあたり、本講習会企画コアメンバーおよび講演いただく先生方をはじめ、本講習の受講者の選出にご尽力いただいた日本医師会、日本小児科学会、日本小児科医会、日本在宅ケアアライアンス代表の新田國夫先生、太田秀樹先生をはじめとする皆様、さらには在宅医療助成公益財団法人勇美記念財団のご支援、ご協力に、こころより感謝申し上げます。

平成28年 初春

国立成育医療研究センター 医療連携・患者支援センター  
在宅医療支援室 室長 **中村 知夫**

# 平成27年度 小児等在宅医療地域コア人材養成講習会

<b>日時</b>	2016年2月7日（日）08：45～17：30	
<b>主催</b>	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター	
<b>目的</b>	<p>全国都道府県から推薦された受講者の先生方が、地域の地域において小児在宅医療の基盤整備、推進活動においてアドバイザー役になれるように本研修を位置付ける。</p> <p>本講習会を受講することで、小児在宅医療に関する様々な知識を深め、今後、自らの多業種との協働を通して、小児在宅医療の基盤整備、推進活動に関する意義と方向性を理解する。</p>	

## プログラム [午前：8:45～12:40]

8:45～9:00	【開会の辞】	五十嵐 隆（国立成育医療研究センター）
	【本研修の趣旨説明】	中村 知夫（国立成育医療研究センター）
9:00～11:00	<b>【総論】小児在宅の現状と問題点の共有</b> ◆小児在宅の現状と問題点 前田 浩利（医療法人財団はるたか会） ◆各地域での在宅医療に関する問題点グループディスカッション ◆小括I（5グループからの発表）	
休憩（10分）		
11:10～12:40	<b>【各論1】地域連携・多職種協働</b> ～さまざまな職種と協力して、小児在宅患者が住みやすい地域を作る～ ◆その1：行政、病院、施設との連携 岩本 彰太郎（三重大学医学部附属病院） ◆その2：地域の医療、福祉との連携 宮田 章子（さいわいこどもクリニック） ◆その3：大人の在宅医との連携 太田 秀樹（全国在宅療養支援診療所連絡会） ◆その4：多職種との連携 谷口 由紀子（医療法人社団麒麟会） ◆質疑応答	
昼食（20分）		

## プログラム [午後：13:00～17:30]

13:00～14:20	◆各地域での連携に関するグループディスカッション ◆小括II（5グループからの発表）	
14:20～17:10	<b>【各論2】在宅医療の仕組み</b> ～在宅医療の仕組みを理解し、小児在宅患者の実情に合った仕組みを作る～ ◆小児在宅医療における診療報酬 大山 昇一（川口済生会病院） ◆福祉制度 梶原 厚子（医療法人財団はるたか会） ◆介護保険制度の在宅の仕組み 石黒 秀喜（長寿社会開発センター） ◆小児在宅医療と地域包括ケアシステム 奈倉 道明（埼玉医科大学総合医療センター） ◆質疑応答 ◆地域を創るための取り組みと自らの役割グループディスカッション ◆小括III（5グループからの発表）	
17:10～17:20	【総括】受講修了書授与（代表者）	
17:20～17:30	【閉会の辞】	中村 知夫（国立成育医療研究センター）